

# 研究主題「武道の指導を通して、生徒の社会性が高まる授業モデルの開発 —知的障害特別支援学校高等部における 空手道の『形』と『礼法』の学習を通して—

東京都教職員研修センター研修部授業力向上課  
都立墨田特別支援学校 主任教諭 佐藤 賢一

## 第1 研究のねらい

学校教育において、社会に適応するために必要な社会性を高めることは非常に重要である。特に企業就労を目指すことが多い知的障害特別支援学校高等部の生徒の社会性を高めることは、卒業後の社会生活の豊かさを大きく左右するといっても過言ではない。加えて、新型コロナウイルス感染症による新しい生活様式の実践が進む中、学校の教育活動についても新たな対応が求められている。

社会性の育成は、学校教育全体で取り組む内容であるが、保健体育の学習は大きな役割を担っている。例えば、仕事における作業を行い続ける体力や、ねばり強くやり抜く力を高めること、ルールや決まりを守る中で、社会人としての礼儀や人との良好な関係を築く力などを養うことが挙げられる。高等学校学習指導要領解説保健体育編（平成30年7月）によれば、「武道においては、礼を重んじ、その形式に従うことは、自分を律するとともに相手を尊重する態度を形に表すことであり、その自己制御が人間形成にとって重要な要素であることを、技の習得と関連付けて指導することが大切である。」と示されている。つまり、礼法や技能の習得とともに相手を尊重することを重視する武道の特性は、社会性の育成に有効であると考えられる。

そこで、本研究においては空手道を取り上げることにした。特に「形」と「礼法」に着目した指導を通して、技ができる楽しさや喜びを味わわせながら主体的に運動に取り組ませるとともに、伝統的な行動の仕方を守り、自己の役割を果たし仲間と協力したり、場や用具の安全を確保したりし、人とうまく関わり適切な行動がとれる社会性が高まると考えた。

## 第2 研究仮説

知的障害特別支援学校高等部 保健体育 武道 空手道の学習において、「形」と「礼法」に着目した指導をすれば、生徒は技ができる楽しさや喜びを感じながら運動に取り組むとともに、状況に合わせた挨拶や礼儀作法が身に付けられるであろう。

## 第3 研究の内容と方法

### 1 基礎研究

(1) 社会性について、国や東京都の指導資料等を基に文献研究を進めるとともに、知的障害特別支援学校における保健体育 武道に関する先行研究について明らかにした。

ア 学校教育で社会性を育成する際の主な内容として「基本的な生活習慣」、「対人関係の在り方」等を示していることが分かった。「児童生徒の社会性を育むための生徒指導プログラムの開発」（国立教育政策研究所生徒指導研究センター 平成16年3月）

イ 社会性の育成に関わる具体的な指導内容の例として、場や相手にふさわしい挨拶の仕方、場面に応じて人に期待されることへの対応やマナー全般などが考えられることが分かった。「社会性の学習」（東京都教育委員会 平成24年3月）

ウ 全国における武道の実施率及び授業実施に向けての検討課題、礼法の歴史や「伝統的な

行動の仕方」の構成概念が明らかとなった。「特別支援教育における武道の実施状況と課題に関する研究」(2016)「武道授業における伝統的な『礼法』の探索的検討」(2019)

## 2 調査研究

都立知的障害特別支援学校の保健体育科主任を対象に武道の実施状況及び指導内容と課題についてアンケート調査を実施した。(有効回答数 49)

### (1) 武道の実施率に関する調査結果

知的障害特別支援学校における武道の未実施率が半数以上を占めること(図1)。

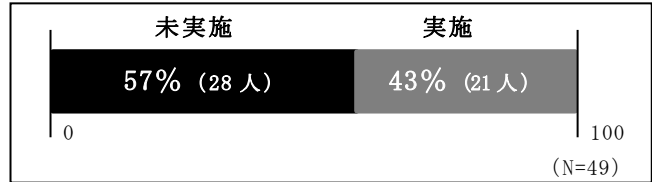


図1 武道の実施率の調査結果

### (2) 武道の未実施理由に関する調査結果

武道実施の課題は、施設設備と安全の確保の課題が上位であること(図2)。

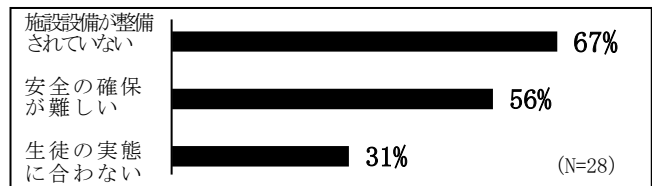


図2 武道の未実施理由(複数回答)の調査結果

### (3) 武道実施に向けて必要となるものの調査結果

実施に向けて、武道具等の整備や授業モデルが求められていること(図3)。

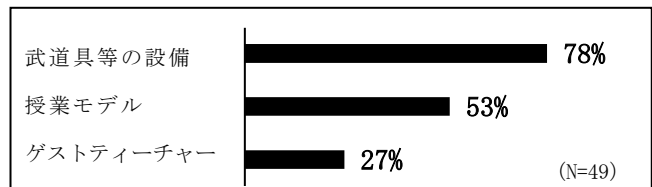


図3 武道実施に向けて必要となるもの(複数回答)の調査結果

### (4) 武道の学習を通して期待できる内容に関する調査結果

「挨拶や礼儀作法」が84%で最も多く、社会性を高める教育的効果が期待されていること(図4)。

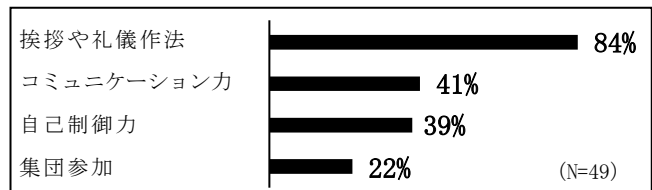


図4 武道の学習を通して期待できる内容(複数回答)の調査結果

以上の結果から、指導内容や場の設定の工夫をし、安全性を保ちつつ教育効果が期待できる指導法の必要性が明らかになった。そこで生徒の社会性が高まる授業モデルを開発することとした。

## 3 開発研究

### (1) 空手道設定の理由

施設課題等をはじめ安全・安心な武道学習を実施するために空手道の5点のメリットを明らかにした(表1)。

表1 武道実施の課題を克服できる空手道設定の理由

1	専用施設	体育館や屋外でも実施可能
2	コンタクトプレイ	「形」の学習は、相手に接触しない形式のため安全性が保たれる
3	用具や道具	専用の用具がなくても実施可能
4	服装	道衣がなくても実施可能
5	感染症対策	練習や試合において2 m以上の物理的距離が確保できる

### (2) 空手道の「形」と「礼法」について

「形」の学習を3段階に分け、協働学習の内容の充実を図る。「礼法」の指導では、3観点到に分類し、「形」の学習段階に合わせて「礼法」の指導・評価ができるようにした。社会性を高めるための学習構造として「形」と「礼法」の指導から、a~dの構成要素で社会性を育成する(図5)。

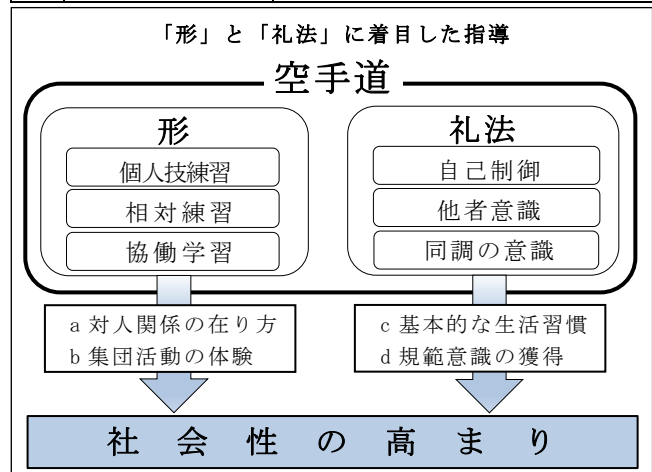


図5 空手道「形」と「礼法」に着目した指導の構造図

#### 4 検証授業及び検証授業の分析

##### (1) 検証授業の概要（表2）

都内知的障害特別支援学校高等部第2学年普通科の保健体育において空手道の授業を全6時間で実施した。

表2 単元計画

次	時	○学習内容・学習活動
第1次	第1時	○オリエンテーション ・学習の進め方（視聴覚教材使用）・「礼法」・約束事項の説明
	第2時	○空手道の基本動作と技を身に付けて楽しむ① ・「礼法」・立ち方・基本動作
第2次	第3時	○空手道の基本動作と技を身に付けて楽しむ② ・基本動作・立ち方・進退動作・ペア練習（技の確認）・「形」練習
	第4時	○身に付けた技能を用いて団体形を楽しむ① ・ペア練習（技の確認） ・「形」のグループ練習・グループで役割分担や練習方法の話し合い
第3次	第5時	○身に付けた技能を用いて団体形を楽しむ② ・「形」のグループ練習・グループの課題に合わせた練習
	第6時	○団体形トーナメントを楽しむ ・グループごとに団体形演武を行う・役割を理解して試合運営をする ・全体で形演武を行う

「形」と「礼法」の学習により育まれる a～d の構成要素を社会性に結び付けるため、指導方法を工夫した。「形」の指導では、第1時から第3時に個人練習、相対練習を設定し、第4時から第6時に協働学習の3段階で構成した。「礼法」の指導では、伝統的な行動の仕方、伝統的な考え方にに基づき、「自己制御」「他者意識」「同調の意識」の3観点から構成した。学習を通して「形」と「礼法」を総括的に評価できるよう、第6時に団体形の試合を設定した。

##### (2) 検証授業の分析

###### ア 「振り返りシート」を用いた生徒の自己評価

授業次ごとに、「形」と「礼法」を基に「自己制御」、「他者意識」「同調の意識」から構成した質問内容で生徒が学習を振り返り、自己評価を実施した。学習の進展とともに数値が上昇していることから、多くの生徒が「伝統的な行動の仕方」、「伝統的な考え方」に基づく学習内容を理解していることが分かった（図6）。

###### イ 社会性の構成要素に基づいた生徒の自己評価

単元終了時に、学校教育で育成する社会性の構成要素を基に設定した4項目のアンケートを実施した。肯定的な回答が8割以上あることから、生徒自身が学習を通して社会性の高まりを実感していることが分かった（図7）。

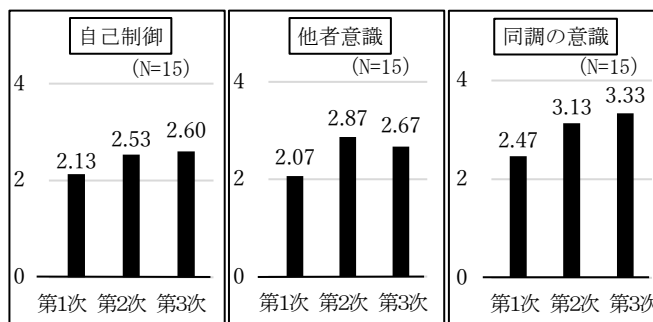


図6 観点ごとに肯定的な回答数の平均

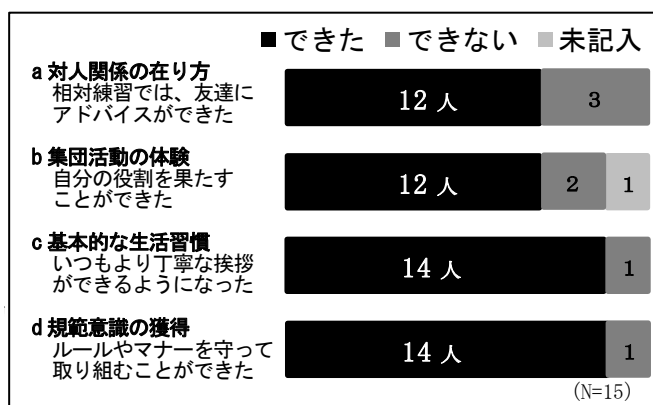


図7 社会性の構成要素に基づいた生徒の自己評価結果

## ウ 検証授業のビデオ分析

生徒の体育館への出入りと学習の様子を撮影した映像を基に、社会性を育成する a～d の構成要素を観点に生徒の変容を分析した結果、以下の 3 点が見出された。

### (7) 基本的な生活習慣

第 1 次では、体育館の出入り時に何も意識する様子が見られなかったが、第 3 次では、立ち止まり一礼や声を出して挨拶をしてから出入りする姿が見られるようになった。

### (4) 対人関係の在り方

第 2 次での相対練習では、新聞紙を使用した正拳突きの練習を交互に行ったり、互いの立ち方を学習カードで確認したりする様子から、自分の思いや考えを相手に伝えようとする様子が確認できた。

### (7) 集団活動の体験、規範意識の獲得

第 3 次では、試合のルールや礼儀作法を守って、各グループが「基本形 1」の演武ができた。その中で、「礼に始まり礼に終わる」という武道の形式を守ること。すなわち、自己の感情をコントロールし、相手を意識して試合に取り組んでいる生徒の姿が確認できた。

## エ 教員への聞き取り調査

検証授業前後の生徒の変容と空手道の授業について、教員に聞き取り調査を実施した。調査結果より、空手道の授業後、生徒の学校生活における変容が次のように分かった。

- これまで声が小さく、挨拶や意思表示に消極的であった生徒が、空手道の授業以降、朝や帰りに自分から声を出して挨拶ができるようになってきた。空手道の授業が後押しになったと感じる。
- 相手を見ることや相手に伝わる声の大きさ等を長期間の課題としている生徒が、空手道の授業以降、作業日誌や面接練習シートに声を出すことや相手を見ることを自身の課題として記入するようになった。

### (3) 検証授業の考察

空手道の学習を通して、生徒自身が社会性の高まりを実感し、生活に生かせるものにすることを重視した。そのために、空手道の魅力を生徒に味わわせながら、協働学習に結び付けられるよう、学習の構造化を意識して指導した。検証授業では、生徒たちが話し合いを通して理解を深め合い、力を合わせて課題解決に取り組むことができたと考える。この様子から、知的障害特別支援学校における空手道導入の有効性について実証できたと考える。

## 第 4 研究の成果

「形」の学習では、「個人技練習」、「相対練習」、「協働学習」の 3 段階を設定したことで、生徒は、技ができる楽しさや喜びを感じながら「対人関係の在り方」や「集団活動の体験」を学ぶことができた。

「礼法」の指導では、伝統的な行動の仕方や伝統的な考え方に基づいた、「自己制御」、「他者意識」、「同調の意識」の 3 観点から指導を行ったことで、生徒は、状況に合わせた挨拶や礼儀作法を身に付けながら、「基本的な生活習慣」や「規範意識の獲得」を学ぶことができた。「形」と「礼法」に着目した指導は、a～d の構成要素（図 5）を育成することに有効であった。

## 第 5 今後の課題

知的障害特別支援学校における、武道（空手道）授業の普及、啓発を図るために、映像を含む指導・支援資料の作成や実技研修会等を進めていく必要がある。